

第 4 回 畜産企画部会委員要求資料

平成 1 6 年 7 月
農 林 水 産 省
生 産 局 畜 産 部

目次

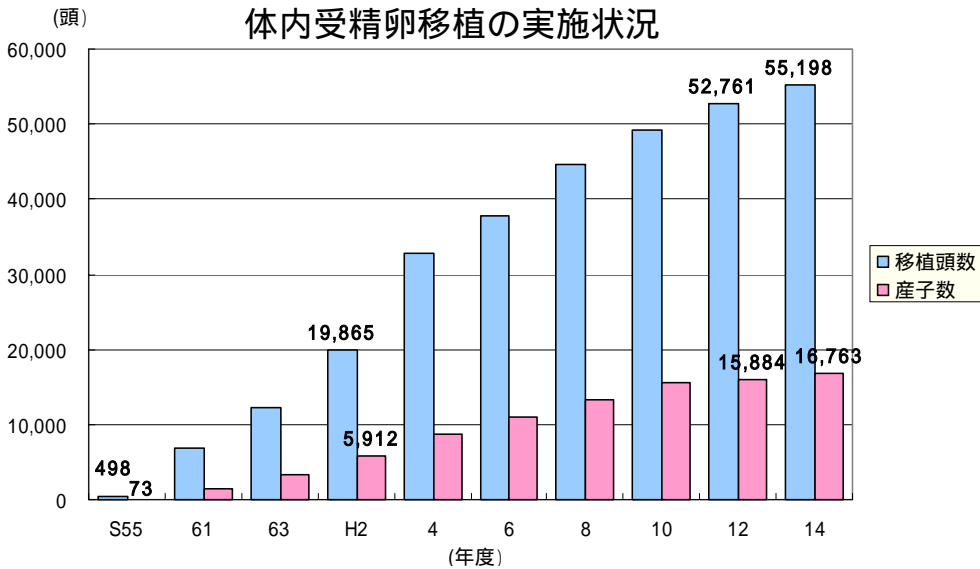
頁

| | |
|----------------------------|---|
| 受精卵移植技術の現状について(阿部委員) | 1 |
| 放牧経営の現状について(矢坂委員) | |
| 我が国における放牧の取組 | 2 |
| 我が国における放牧の状況(酪農) | 3 |
| 我が国における放牧の状況(肉用牛繁殖) | 4 |
| 公共牧場の利用状況 | 5 |

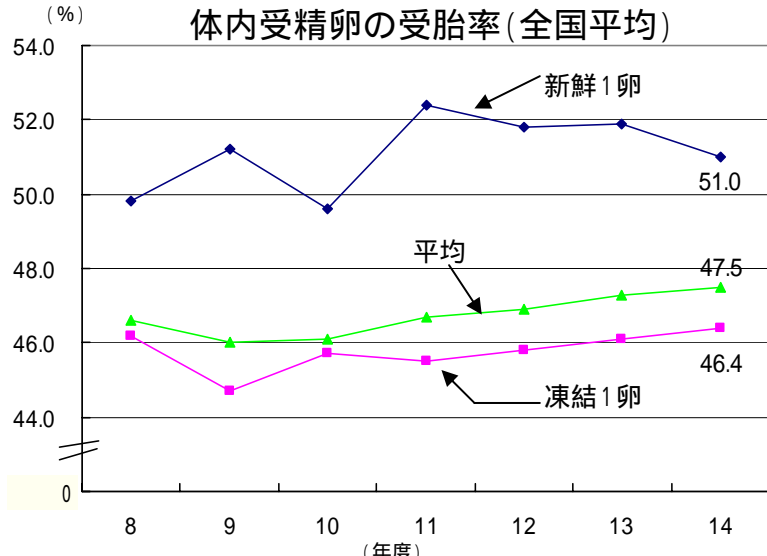
受精卵移植技術の現状について

- ・ 受精卵移植技術は通常の繁殖技術として現場に定着。我が国においては、乳用牛を用いた和牛生産が主流。
- ・ 最近の平均受胎率は新鮮卵で50～52%、凍結卵で45～46%で安定的に推移。一方で70%を越える受胎率を維持している機関も存在。
- ・ より一層の普及に向けて、移植コストの低減、人工授精並の受胎率の確保が課題。

体内受精卵移植の実施状況



体内受精卵の受胎率(全国平均)



受胎率上位10機関の成績(平成14年度)

(単位:頭、%)

| 都道府県 | 実施機関名 | 移植頭数 | | 受胎頭数 | | 受胎率 | |
|------|-------------------|-------|-----|-------|-----|-------|------|
| | | うち凍結卵 | | うち凍結卵 | | うち凍結卵 | |
| 北海道 | びえい動物病院 | 68 | 66 | 51 | 49 | 75.0 | 74.2 |
| 北海道 | かわまた家畜診療所 | 196 | 84 | 137 | 60 | 69.9 | 71.4 |
| 鹿児島県 | 山幸ETセンター | 277 | 57 | 193 | 37 | 69.7 | 64.9 |
| 北海道 | 全国農業協同組合連合会ETセンター | 1,659 | 577 | 1,143 | 393 | 68.9 | 68.1 |
| 長崎県 | 壱岐郡受精卵移植研究会 | 131 | 105 | 90 | 76 | 68.7 | 72.4 |
| 北海道 | 北海道農業開発公社十勝育成牧場 | 281 | 133 | 192 | 87 | 68.3 | 65.4 |
| 北海道 | 幌延町農業協同組合 | 96 | 91 | 61 | 59 | 63.5 | 64.8 |
| 栃木県 | (株)那須技研 | 349 | 341 | 218 | 213 | 62.5 | 62.4 |
| 北海道 | 足寄町大規模草地育成牧場 | 96 | 50 | 60 | 28 | 62.5 | 56.0 |

資料: 畜産振興課調べ

人工授精の初回受胎率
57.0% (14年度平均)

我が国における放牧の取組

< 放牧とは >

牧草地等に牛を放し、牛自ら採食させることにより牧草地等を直接牛に利用させる飼養技術

放牧の形態：土地条件、自然条件等により、様々な形態がある。

- 季節 季節放牧(春から秋にかけて放牧)、 周年放牧(冬期間を含め年間通した放牧)
- 放牧時間 昼夜放牧(昼・夜とも一日中放牧)、 昼間放牧(朝晩の搾乳の間で放牧)、 夜間放牧(昼の暑熱を避ける放牧)
- 放牧地 牧草地放牧、 水田放牧、 未利用地放牧(野草地、林地、耕作放棄地等)
- 放牧方法 集約放牧(小区画の牧区を短い期間で輪換することにより、栄養価の高い牧草を採食させる放牧方法)

畜種別の特徴

乳用牛：
牧草地での放牧が一般的。集約放牧を取り入れることにより乳量の減少を抑えることが可能。



集約放牧

肉用牛：
肉用繁殖牛では、エネルギーを必要としないので、野草地、林地、耕作放棄地等の未利用地での放牧が可能。



耕作放棄地での放牧

我が国における放牧の状況(酪農)

放牧地の形態

経営内放牧地 99.7%、 共有地 0.3%

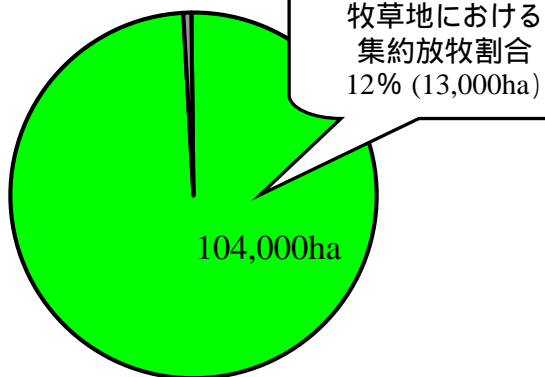
ほとんどが
経営内放牧

放牧戸数

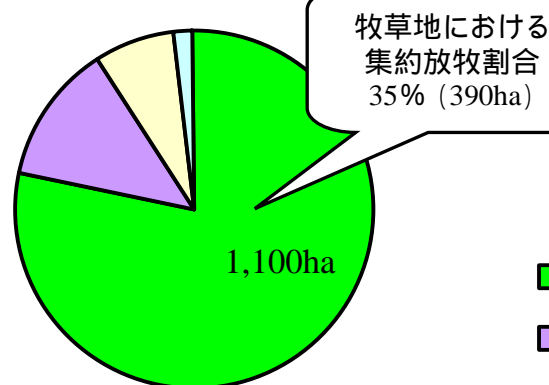
約半分の農家
が放牧を活用

| | 乳用牛飼養戸数 (a) | 放牧取組戸数 (b) | 取組割合 (b/a) | 集約放牧戸数 (c) | 取組割合 (c/a) |
|-----|----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 北海道 | 9,400 戸 | 4,610 戸 | 49% | 590 戸 | 13% |
| 都府県 | 21,600 戸 | 240 戸 | 1% | 50 戸 | 20% |

放牧面積



北海道(105,000ha)



都府県(1,420ha)

- 牧草地
- 野草地
- 林地
- その他

我が国における放牧の状況(肉用牛繁殖)

放牧地の形態

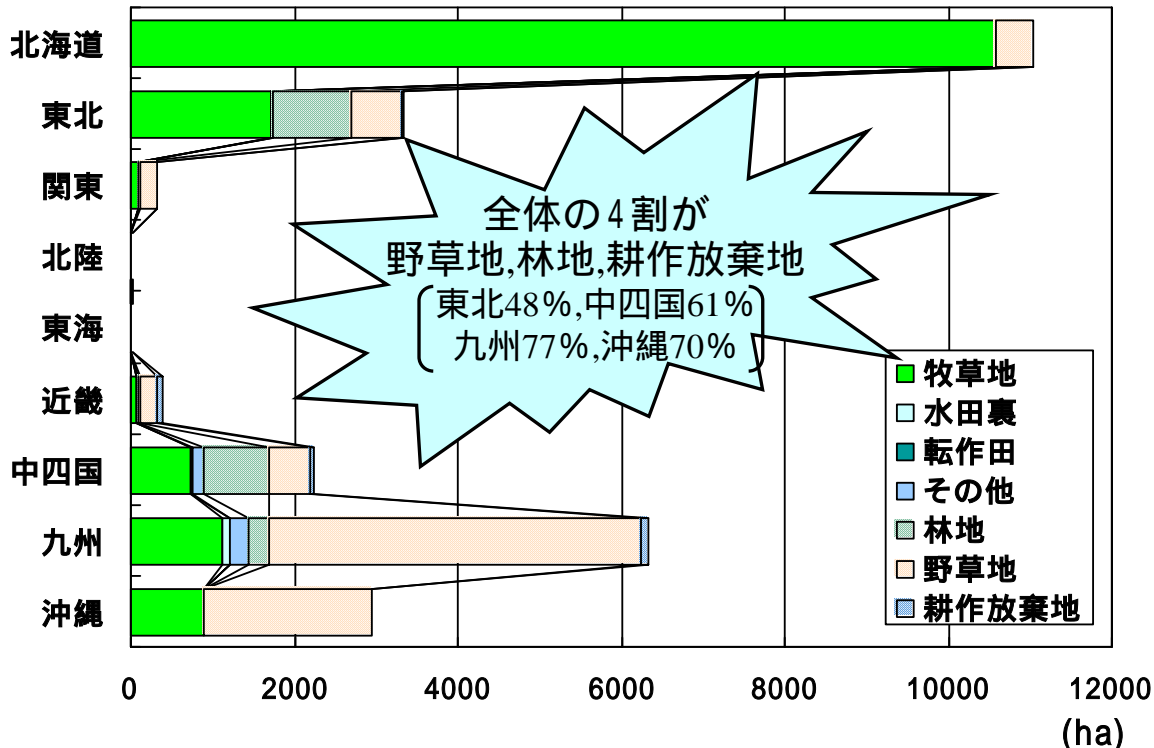
経営内放牧地 45%、 共有地 55%

酪農に比べ共有地の割合が高い

放牧戸数(全国)

| 子取り用めす牛 | | |
|----------|---------|--------|
| 飼養戸数 | 放牧戸数 | 放牧取組割合 |
| 89,400 戸 | 4,300 戸 | 5 % |

放牧面積



耕作放棄地等の未利用地の積極的活用事例

< 山口県の事例 >
県、市町村、JA、関係団体が一体となった
中山間地域などにおける放牧の取組を推進

(取組内容)

- ・集落説明会の実施
- ・放牧技術の指導
- ・貸出し放牧牛の登録と貸し借り調整、電牧等の貸し付け 等

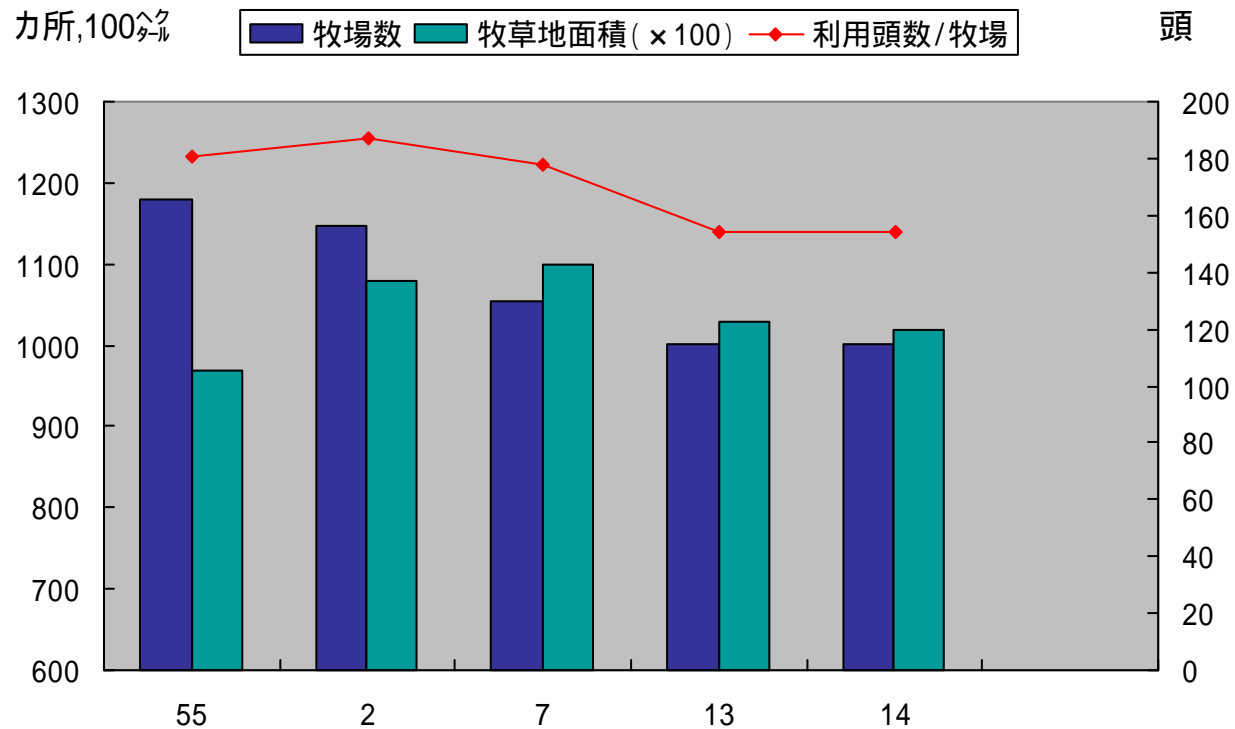
| | |
|----------|-----------|
| 平成11年 | 平成15年 |
| 11.85 ha | 104.62 ha |
| 15 戸 | 60 戸 |



公共牧場の利用状況

1. 公共牧場(地方公共団体や農協等が設置して、農家の牛を一定期間預託管理する牧場)は、農家の飼料基盤が脆弱な我が国において、特に育成牛の預託を中心に発達したものの。
2. 近年では、農家戸数の減少、独立採算性の導入等から、その運営が厳しく、牧場数、総面積、1牧場当たりの利用頭数とも減少傾向で推移。
3. しかしながら、酪農を中心に利用度は高く、北海道では農家の約半数が、都府県では3割が利用している。

公共牧場の推移



資料: 公共牧場実態調査